

断片的主観性

—主観性の生産プロセスをめぐる冒険

講師：ステファン・ナドー（ヴィル・エヴラール病院）

概要

ガタリの「主観性の生産プロセス」という言葉には、とても単純だが考察すべき問いが隠されている。すなわち、私たちは何者なのか？資本主義と呼ばれる体制において私たちは何者になりえるのか？という問いである。私たちは個体でありながら、同時に集合的な総体である。そのとき、私たちの各人はいったい何者でありえるのだろうか？

講師紹介

ステファン・ナドー（医学博士・哲学博士）

小児精神科医として、同性愛の家族とその子育てをめぐる著作で知られるほか、哲学者として『アンチ・オイディプスの使用マニュアル』（信友建志訳、水声社）、『アンチ・オイディプス草稿』（國分功一郎ほか訳、みすず書房）などの著作がある。最新作はFragment(s) Subjectif(s)。

日時：2011年10月31日(月) 15:00－18:00

場所：大阪大学(吹田キャンパス)生命科学図書館4階AVホール

使用言語：フランス語(通訳あり)
※どなたでも自由に参加できます

問い合わせ：tokimeki.bios@gmail.com
 http://twitter.com/#!/tokimeki_bios